

アンリツグローバル本社棟

ANRITSU GLOBAL HEADQUARTERS

No. 13-041-2016作成

新築

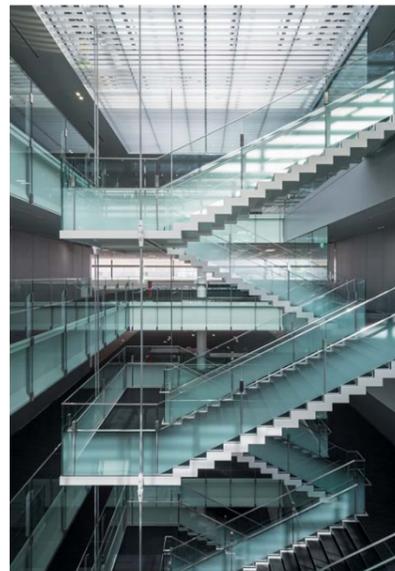
事務所/その他

| | | | | | | |
|-------|------------------------------------|--------------|-------------|---------------|--------------|------------|
| 発注者 | アンリツ株式会社 | カテゴリー | A. 環境配慮デザイン | B. 省エネ・省CO2技術 | C. 各種制度活用 | D. 評価技術/FB |
| 設計・監理 | 株式会社 竹中工務店 TAKENAKA CORPORATION | E. リニューアル | F. 長寿命化 | G. 建物基本性能確保 | H. 生産・施工との連携 | |
| 施工 | 株式会社 竹中工務店 | I. 周辺・地域への配慮 | J. 生物多様性 | K. その他 | | |

ひとつひとつ、ひとつと自然をつなぐR&D本社ビル



外観写真



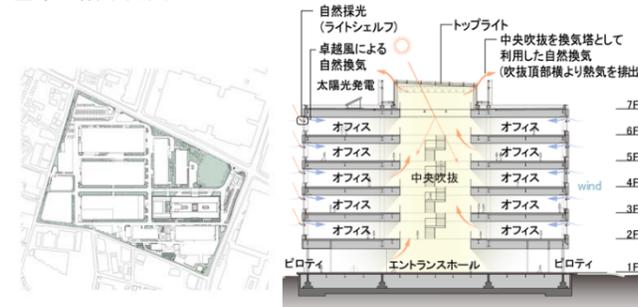
自然換気排出路となる中央吹抜

ひとつひとつをつなぐオープンラボ

アンリツグループのR&D機能とグローバル本社機能を集約、強化した建物である。配置は既存を継承した東西に長い矩形の建築とし、外装は、低層部をピロティで持ち上げ、南北をPC板、水平ルーバーと開口、東西を「大山」の眺望を確保する開口とコアを内包する壁面としている。建築の構成は、6層の高層部と低層のホール・研修室である。高層部の断面は1階をレセプション、最上階を本社とし、その中間階のR&Dは、南北にオフィス、中央にラボをオープンな空間に共存させている。ラボ・オフィスの界面に沿って日常のアクティビティを導くコアの要素を分散して配置することで多様な場を形成し、さらに上下フロアを開放的な中央の吹抜けによってつなぐことで、異なる階でのコミュニケーションをも促す。外装の水平ルーバーには、外気導入機構を組み込み、中央の吹抜の煙突効果を利用した自然換気を行っている。このルーバーは、眺望と導入空気の到達距離、メンテナンスを考慮してヒューマンなレベルとし、自然の風とその空気感を感じるとともに、豊かな眺望を享受できる研究、執務環境を創出している。



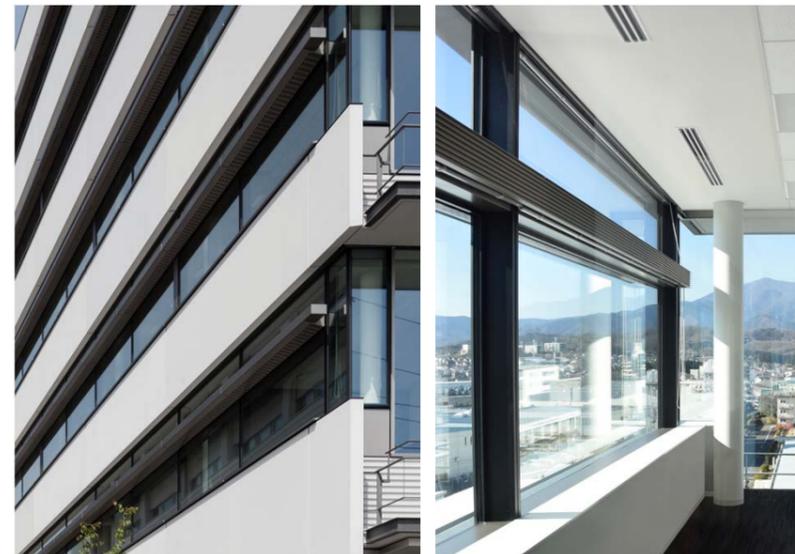
基準1階平面図



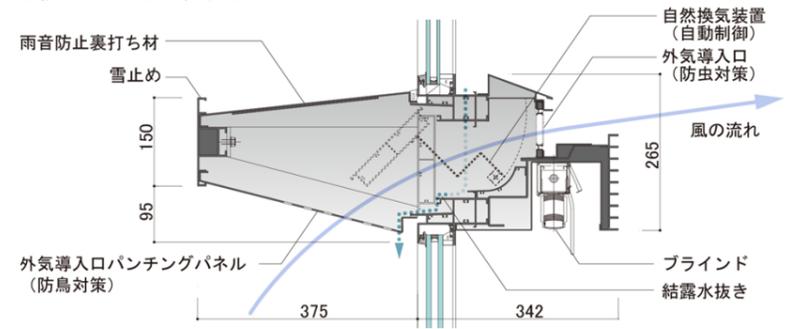
短手断面図(エリア詳細)

配置図

| | | | | | | | |
|-------|---------|----------------|----------|---------|------|--------------|------|
| 建物データ | 所在地 | 神奈川県厚木市 | 省エネルギー性能 | PAL削減 | 23 % | CASBEE評価 | Sランク |
| 竣工年 | 2015年 | ERR (CASBEE準拠) | 29 % | BEE=3.2 | | 2010年度版自治体提出 | |
| 敷地面積 | 99,595㎡ | LCCO2削減 | 23 % | | | | |
| 延床面積 | 27,697㎡ | | | | | | |
| 構造 | S造 | | | | | | |
| 階数 | 地上7階 | | | | | | |



連続100mに渡り設置された水平ルーバー



水平ルーバー詳細

ひとつと自然をつなぐ水平ルーバー

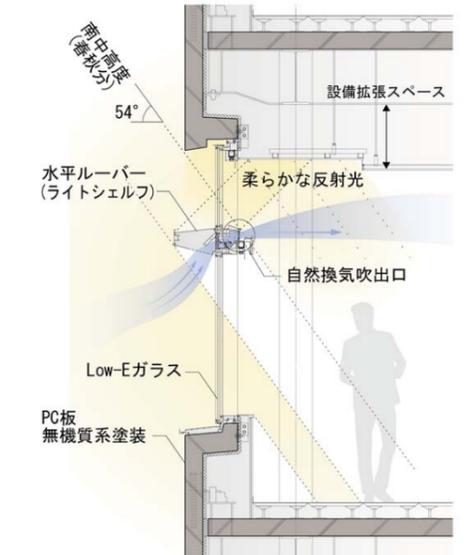
ファサードを特徴づける長さ約100メートルの水平ルーバーに外気導入機構を組み込み、全館の自然換気を行うと同時にライトシェルフ機能を合わせ持たせた。ルーバーの設置高さは、室内からの眺望の妨げとならないレベルとしている。取り入れた風がより奥に届くことをシミュレーションで確認して、ブラインドと干渉しない室内側面に吹出口を配置し、上段を開けたまま、下段のブラインドだけで日射遮蔽と視線制御ができるようにしている。製作にあたりルーバーとガラス開口部を一体でユニット型サッシとし、止水性能、寸法精度を高いレベルで確保することで、無足場化による工期短縮と労務の削減を実現している。外部は、防汚、落雪、雨音の対策、内部は、日常の清掃、将来の機構交換を考えたディテールとし、取入れ高さを人の活動域に近づけることで自然の風とその空気感を感じるとともに、周辺の眺望を最大限享受できるペリメーター空間とした。また、2015年度、実績評価によれば中間期の空調電力消費量を約28%削減している。明るさ感評価では、ブラインド上部を開、下部を閉とすることで、適切な明るさ感が得られていることを確認した。

設計担当者

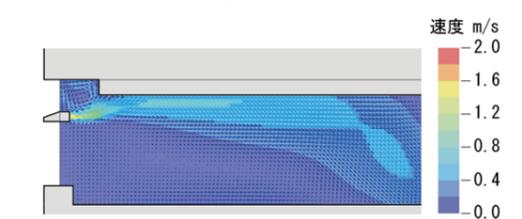
統括：渋谷学/建築：橋保宏、吉川達哉、戸澤和久/構造：井出豊、梁田真史
設備：田中宏治、矢野諭、川上大樹/外構：向山雅之、村田早穂/防災設計：竹市尚弘

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2. 2. 耐用性・信頼性 (免震構造、BCP連続 144時間対応)
- Q3. 1. 生物環境の保全と創出 (厚木の原風景の再生)
- LR1. 1. 建物外皮の熱負荷抑制 (東西を軸とした建物形状、ピロティ空間の創出、Low-Eペアガラスによる外皮負荷削減)
- LR1. 2. 自然エネルギー利用 (自然換気・ライトシェルフ自然採光・太陽光発電)
- LR1. 3. 設備システムの高効率化 (高効率トランス、全館LED、昼光・人感センサー、外気冷房導入)
- LR2. 1. 水資源保護 (井水洗浄利用、節水型器具)



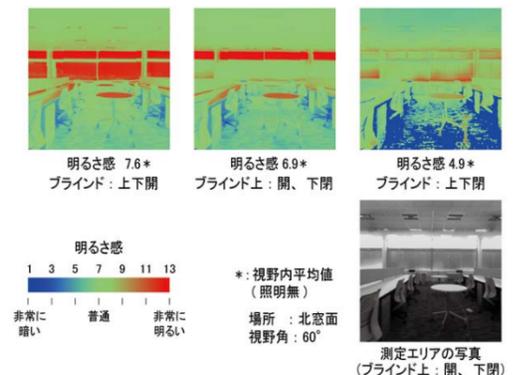
ペリメータ断面詳細図



自然換気 室内気流シミュレーション



2015年度 自然換気による空調電力削減効果



窓周りの明るさ感評価 (照明OFF)